

「Ⅶ」11月10日（第2木）小机城趾、浅間神社・泉谷寺・雲松院

（集合；JR横浜線「小机駅」改札口9；50分厳守同時出発）

（1）行程；「小机駅」→小机城趾→金剛寺→（住吉神社省略？）→泉谷寺→雲松院→「小机駅」。

（2）昼食場所；「J」・TEL；045——。

1・小机城趾（小机城趾市民の森・鶴見川に面し標高42m丘陵、広さ320m×280m）

京浜第三国道が地図上、人家の少ない処を選び計画され、不幸にも小机城趾を分断した。築城年代不明だが、永享の乱（1438～39）の後、関東管領上杉氏によって築城されたとみる。太田道灌に攻略され、廃城となったが、小田原北条の時代になって武蔵南武の大根城として再整備され、伊豆の土豪笠原信為が城代として配属された。信為は鶴見川流域の武士を小机29人衆として再組織し、支配下に置いて守りを固めた。更に東部の守りとして馬場城（鶴見区）篠原城。北部、山田城、茅ヶ崎城。西部、荏田城、恩田城、久保城。を配した。第三京浜国道によって分断されたが、郭（くり・土塁や堀で囲まれた区画）、土塁、空堀（上部12.7m、底5m、深さ12.0m）櫓台跡など主要部分は完全に残っている。小机城は東郭と西郭を細長い帯郭（おびくり）でつなぐ構造で、楕円形の東郭が古い形態を残して二の丸と考えられ、正方形の西郭が後北条氏により改修、本丸と考えられている。櫓台（やぐらだい）は矢蔵（兵庫）、高櫓（たかろう）、井楼（せいろう）等と呼ばれ「見張り台」のようなもので、近世初期（15～16世紀）の成郭の天守閣の起源とも考えられる。富士仙元；小富士山頂に富士講仙元碑（仙元神社、文久9年＝1869？）・小机城供養碑。

○小机城の決戦；文明5年（1473）関東管領山ノ内上杉氏執事長尾景信死後、上杉顕定は景信の嫡子景春を嫌い、弟の忠景に跡を継がせた。不満とした長尾景春は、古河公方足利成氏と通じ、上杉氏に反旗をひるがえし鉢形城（埼玉県寄居町）に立てこもった。文明8年の事。此に平安時代から武蔵国に勢力を持つ大武士団豊島一族も加わった。この反乱の鎮定軍の大將に任命されたのが太田道灌（東国一弓取）。道灌は反乱軍を次々と打ち破り文明10年（1478）小机城に逃げ込んだ豊島一族を攻

め寄せた。小机城主小机弾正左衛門昌安、助けるのが景春与党矢野兵庫助であった。反乱首謀者上杉景春は、武蔵国二宮城に後詰めして小机城を防衛戦とした。小机城は難攻不落の名城で、さすがの道灌も攻めあぐんだ。道灌は鶴見川対岸の亀甲山に陣を置き長期戦を覚悟した。30数回に及んだ合戦のはてようやく城を落とし、反乱は鎮圧した。文明12年の事。小机城が落ちると二宮城の景春の敗走余儀なくした。

○永享の乱；(1438～39) 永享10年関東公方(4代)足利持氏(持方)が室町幕府に反逆した事件。持氏の執事(関東管領)上杉憲実(ハサネ)は幕府と持氏の間をとりもったが、足利義持の死で、持氏は將軍職をねらったが、義教(ヨシノリ)の就位で果たさなかった。持氏の義教への反抗、憲実とも不和が生じ、憲実(ハサネ)は本橋上野(コウスケ・群馬県)に逃れ幕府の保護を求めた。義教は持氏追討の大軍を(今川・武田・小笠原ら有力守護、豪族)関東に派遣、持氏は孤立化し、1438年金沢称名寺で剃髪、謹慎の意を表した。更に幕府の圧迫は厳しく、持氏は翌年2月叔父満貞とともに自殺した。此処に関東幕府は亡び関東の実権は上杉氏の手に移った。

2・金剛寺(曹洞宗・醫王山雲松院末・本尊、薬師瑠璃光如来坐像、伝行基作・武南12薬師霊場第7番札所)

明翁永寿和尚が小机中央古城蹟下に1草庵を営み法灯を掲げたのが開基と伝う、天明6年(1786)松雲寺19世大繼良智和尚により開山と伝う。本尊はその年此の地に疫病流行し、長谷川道全氏の帰依により万民の平癒を祈願奉安されたと伝う。庚申地藏像(安山岩、寛文9巳酉ヲトリ=1669)

3・堀崎地藏堂(小机891)

出羽三山供養塔(文化9年壬申ミヅノイサル1812)・百箇所観音参詣碑(天明5乙巳キトリ歳1785)・地藏像(正徳3巳1713)・庚申塔(寛政8辰年1796)・地藏像(寛政元酉1789)・丸彫地藏立像・地藏像(天和2壬戌ミヅノイヌ1682)・庚申地藏像(延宝5丁巳ヒトリ天仰1677)庚申地藏像(元禄癸酉ミヅノトリ年1688)・双体道祖神・各所から集められたもので、法要は春秋合同で行う。又、近くの人によくお参りする。

4・石仏集合安置所(小机135-9)

小机城物故者供養塔(安岸山基礎富士溶岩製、裏面に由緒刻銘)・大日如来立像(貞享2干加?天16

85)・阿弥陀如来(梵字, 中央阿弥陀仏, 左観音, 右勢至を表す, 来仰相浮彫)・観音立像(宝永4丁亥天ノイ1707)・阿弥陀如来立像(正徳2辰年1712)庚申塔(三角頂碑形, ショウケツをつるす, 寛政12庚申カノイ1800)・その他7基。

5・住吉神社(祭神, 上(表)筒男命ウツツミ, 中筒男命, 底筒男命・配神, 仁功皇后ジノゴウコウリ, 氣久利姫命, 金山姫命, 日ノ神, 加俱都智命カグツチ, 天照皇大御神テソウコウタイジンノミカミ・かつて境内に駒止の松あった)

住吉神社は大概海や河口に近い処を鎮座場所とされ, 昔に遡ればそこは海岸であり, 河口であったと言う。上古(ジョウコ・昔々)小机根古屋と称する108ヶ村の首郷なりと言う水郷一帯の時代に源を発し, この地方の土民安住の処を得, 摂津国(大阪)元官幣大社住吉より分神を勧請, 住民は産土神と仰いで泰齊した。

後に文禄(1592~95)年中より慶長(1595~1614)年間に亘り, 小机領の守護神として小机城主矢野兵庫助の崇敬篤く, 恒例, 臨時の祭典絶ゆることなく又, 文禄年中まで小机・川向・本郷3ヶ村の郷社であり, 慶長年中に分村の時当社の末社稻荷社の分神を偏された。嘉永3年(1850)に本殿再建し棟札を存する。明治6年12月村社に列格, 明治43年4月村内の白山社・愛宕社・神明社を合祀, 増神, 小机領総鎮守として国守り神, 海路平安の神, 和歌の神は元より五穀豊穰, 商業繁栄, 家運隆昌, 旅行安全, 交通安全, 厄難消除等の神として御霊験あらたかで, この地方に生き亨(受)ける者として, 夢寐(ムズ・眠っている間)にも忘れることの出来ない大恩神である。境内説明板由緒。

文明10年(1478)二之宮城の長尾景春の後詰を受け, 鶴見川対岸の亀之甲山に陣取る太田道灌軍との決戦を前に, 小机城主小机弾正左衛門昌安、景春の党矢野兵庫助は決死の覚悟を固め、戦勝祈願に駒止の松に下馬し、手綱を結んだと言う。後に、小田原北条氏から小机城代を命ぜられた笠原越前守も住吉神社に詣でる時は、駒止の松で下馬したと言う。市指定名古木; エノキ・ケヤキ・ムクノキ。明治6年村社, 明治43年村内無格白山社, 愛宕社, 神明社合併。

6・泉谷寺(浄土宗、松亀山・芝増上寺末寺・江戸時代15石寺領、葵御門許された関東3寺の一つ)元亨(ゲンコウ)年間(1321~24)創建された本覚院を大永3年(1523)北条氏綱の家臣二宮

織部正（オビショウ）が現在地に移し、地名をとって泉谷寺と改めた。開山は見萱上人と言う。堂宇は1781（天明元）再建された観音堂を除き、最近鉄筋コンクリートで改築された。初代歌川（安藤）広重が描いた「山桜図」（県重文・一立斎広重署名、東海道の朱印）がある。広重は26代住職了信の義兄で、了信の娘を養女にしている。高さ1.9m杉戸8枚の右4枚に枝垂れ桜、左4枚に山桜が満開ながら哀愁味を持つ作品（非公開）。六地藏（延宝3寅、寛保2戌天、明和2酉、寛保2癸亥ミヅノイ等刻銘）・大灯籠（花崗岩自然石の笠石を埋め方形中大袋笠を載せる）・水鉢（文久4年申子）・筆塚（慶応2丙寅ヒノエ年12月造立筆子中）・観音堂手前、観音像（寛文11亥1671）・地藏像（寛文4戌年1664）・観音像（寛文10戌年1670）・本堂前鐘楼階段に至右手観音像・旧小机領碑（子年開廟）観音霊場第一番札所、御詠歌「ふたらくや ひゃくはちこうの つみとつを いすみがたにで あらいきよめて」。

7・雲松院（曹洞宗・臥龍山、ガリュウサン・本尊、虚空蔵菩薩像・寺宝、小机城主小笠原信為寄進状他古文書、享禄天文年中、市指定文化財）

小机城の小田原北条氏初代笠原信為が父、信隆の追善供養の為天文年間（1532～55）に創建した菩提寺。開山上人天叟（テンソウ）和尚が池の龍を封じ込めて埋立て寺を開いたと言う。山門横の通用門に掛かる扁額「臥龍山」の文字は、名僧の誉れ高い月舟宗胡の筆と言う。笠原氏一族・都筑郡池辺村（現緑区池辺町）の地頭門奈氏の墓。結界石（塔高1m90cm）・弥勒菩薩阿蔵両手で宮殿を奉持（円光破損・像高55cm）・地藏像（総高1m20cm・左右両手欠損・2軀、ク）・筆塚）像高蓮華座含む53cm・元文午＝1736～1741）・丸彫観世音像（像高1m18cm・寛文六丙午ヒノエマ木戸＝1666）・観音立像（総高1m2cm・ン分六丙午）・六地藏（総高88cm・享保六、七、十等刻印1721, 1722, 1725）・山田順道先生碑、市指定文化財天童参抄一冊看板、法華塔、地藏塔。

参考資料

8・俗体男女並座像浮彫墓標（市指文化財）・東観寺（真言宗・瑞照山慈眼院・本尊薬師如来・開山法印義印）

東観寺境内には、寛文11年（1671）に建立された俗体男女並坐像の彫刻墓標がある。当時の農

民が正装である頭巾，袴，袴（かみ）脇差，手には数珠を持った大変珍しい彫刻像。

9・本郷神社（東本郷・祭神，稲倉魂命，天照大神・祭礼9月27日）

創立年代不詳，昭和40年神明社と稲荷社を合祀し，社名を本郷神社と改称。

傳

